

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇

病虫害発生予察注意報第4号

- 1 作物名 **ネギ**
- 2 病虫害名 **シロイチモジヨトウ**
- 3 発生地域 **府内全域**
- 4 発生時期 **9月下旬～11月**
- 5 発生量 **平年比多い**
- 6 注意報発令の根拠

- (1) 9月中旬に山城地域のネギ栽培ほ場で実施した巡回調査の結果、小株での寄生虫数は0.080頭/株(平年値:0.006頭/株)、寄生株率は1.0%(同:0.9%)、発生ほ場率は25.0%(同:16.4%)で平年比多く(+)、大株でも発生を認めている(表1)。
- (2) 京田辺市におけるフェロモントラップへの誘殺虫数(8月第3半旬～9月第2半旬の合計値)は73.7頭で、平成18～26年の平均値(21.2頭)を大きく上回っている(+)(図1)。
- (3) 9月中旬現在、キュウリ、ナス、ダイコンで発生を認めている(+)
- (4) 向こう1か月の気温は平年並または高く(+)、降水量は日本海側で平年並または多く、太平洋側で平年比多いと予想されている。

表1 9月のネギ栽培ほ場におけるシロイチモジヨトウの発生状況

株の種類	項目	本 年	平年値
小株	幼虫数(頭/株)	0.08	0.006
	寄生株率(%)	1.0	0.9
	発生ほ場率(%)	25.0	16.4
大株	幼虫数(頭/株)	0.03	—
	寄生株率(%)	2.9	—
	発生ほ場率(%)	57.1	—

* 小株: 葉長概ね40cm以下、大株: 葉長概ね40cm以上

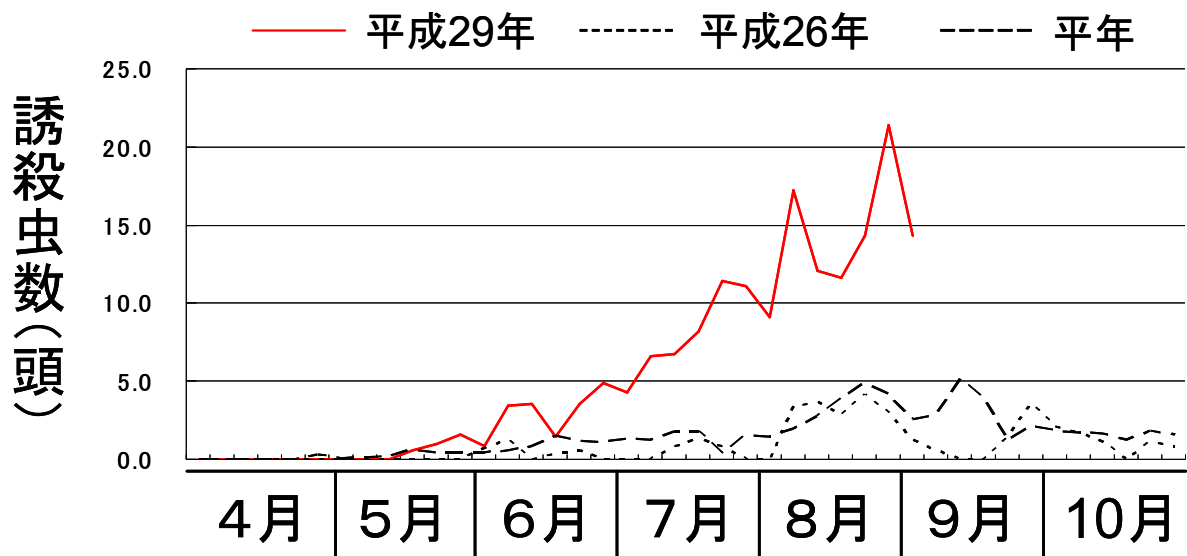


図1 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウの誘殺虫数 (京田辺市)

7 防除上の留意事項

- (1) 中老齢幼虫の薬剤感受性は低下し、ネギでは葉の内部に潜り込むと薬剤による防除効果が低下するので、ほ場をこまめに見回り、若齢期に防除を行う。
- (2) 性フェロモン剤による交信攪乱や黄色蛍光灯を組み合わせた防除を考慮する。
- (3) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さは一箇所にまとめて積み上げ、表面をビニル等で被覆する等適切に処分する。
- (4) 本種は寄主範囲が広く、ネギ以外のマメ類、野菜類、花き類を加害するので注意する。
- (5) 薬剤散布は表4を参考に、使用薬剤は異なる系統のものを使い、同一系統の薬剤の連用は避ける。なお、病害虫防除所で本年実施した薬剤殺虫効果試験の結果は、表2及び3のとおり。
- (6) 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用する。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」で確認すること。
(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。



写真1 シロイチモジヨトウ幼虫



写真2 シロイチモジヨトウの被害株

表2 シロイチモジヨトウ3齢幼虫に各種殺虫剤を浸漬処理したネギ葉を与えた時の補正死亡率

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	補正死亡率(%)		
			1日後	2日後	8日後
1A	ランネート45DF	1000	61.1	72.2	80.0
3A	アグロスリン乳剤	1000	0.0	16.7	40.0
4A	スタークル顆粒水溶剤	2000	0.0	0.0	0.0
5	ディアナSC	2500	100.0	100.0	100.0
6	アフーム乳剤	1000	0.0	5.6	50.0
13	コテツフロアブル	2000	88.9	100.0	100.0
15	カスケード乳剤	4000	0.0	0.0	40.0
21A	ハチハチ乳剤	1000	16.7	27.8	30.0
28	ベネビアOD	2000	83.3	83.3	80.0
	フェニックス顆粒水和剤	2000	0.0	0.0	20.0
UN	プレオフロアブル	1000	55.6	83.3	100.0
	無処理(水道水)		0.0	0.0	0.0

供試虫:2017年7月14日に京都市伏見区淀のネギから採集し、人工飼料で累代飼育した2世代目の3齢幼虫
 処理日:2017年9月6日
 調査日:2017年9月7日、8日および14日
 試験法:ネギ葉片浸漬法

表3 シロイチモジヨトウ3齢幼虫を各種殺虫剤に浸漬処理した時の補正死亡率

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	補正死亡率(%)		
			1日後	2日後	8日後
1A	ランネート45DF	1000	10.0	10.0	15.0
3A	アグロスリン乳剤	1000	20.0	25.0	25.0
4A	スタークル顆粒水溶剤	2000	0.0	0.0	0.0
5	ディアナSC	2500	95.0	95.0	95.0
6	アフーム乳剤	1000	0.0	0.0	0.0
13	コテツフロアブル	2000	70.0	70.0	70.0
15	カスケード乳剤	4000	0.0	0.0	10.0
21A	ハチハチ乳剤	1000	30.0	40.0	45.0
28	ベネビアOD	2000	5.0	5.0	10.0
	フェニックス顆粒水和剤	2000	5.0	5.0	5.0
UN	プレオフロアブル	1000	90.0	90.0	90.0
	無処理(水道水)		0.0	0.0	0.0

供試虫:2017年7月14日に京都市伏見区淀のネギから採集し、人工飼料で累代飼育した2世代目の3齢幼虫
 処理日:2017年9月8日
 調査日:2017年9月9日、10日および16日
 試験法:虫体浸漬法

表4 「ネギ」でシロイテモジヨトウに登録のある主な薬剤(平成29年9月20日現在)

IRACコード*	薬剤名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1A	ランネット45DF	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内	
	ラービン水和剤75	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	ラービフロアブル	750～1,000倍					
3A	アグロスリン乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内	
	アディオン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	トレボン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	トレボンEW	1,000倍					
	テルスター水和剤	1,000倍					
4A	(28) スタークル顆粒水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤)	50倍・0.5L 灌注 / セルトレイ・ペーパーポット	定植前日～定植時	1回	灌注	4回以内 (は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)	
	(28) アベイル粒剤	40g / セルトレイ・ペーパーポット	育苗期後半～定植当日	1回	株元散布	(アセタミプリド) 3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、 植付時の土壌混和及び定植当日までの株元散布は合計1回以内) (シアントラニプロール) 4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)	
	(28) キックオフ顆粒水和剤	100倍・0.5L 灌注 / セルトレイ・ペーパーポット	定植前日～定植時	1回	灌注	(ジノテフラン) 4回以内 (は種時の土壌混和、育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、 生育期の株元灌注は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内) (クロラントラニプロール) 4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)	
5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
6	(15) アファーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	(15) アファームエクセラ顆粒水和剤	1,000～1,500倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	(エマメクチン安息香酸塩) 3回以内 (ルフェヌロン) 3回以内	
	(28) ポリアムガンダム顆粒水和剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	(エマメクチン安息香酸塩) 3回以内 (クロラントラニプロール) 4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)	
11A	フローバックDF	1,000倍	発生初期但し、収穫前日まで	—	散布	—	
	エコマスターBT	1,000倍	発生初期但し、収穫前日まで	—	散布	—	
	デルフィン顆粒水和剤	1,000倍	発生初期但し、収穫前日まで	—	散布	—	野菜類に登録
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
15	アタブロン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	マッチ乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
18	ノーモルト乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	マトリックフロアブル	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ファルコンフロアブル	4,000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	
21A	ロムダンフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内	
22A	トルネードフロアブル	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内	
	トルネードエースDF	1,000倍					
28	ブレバソフロアブル5	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以内、散布は3回以内)	
	ベネビアOD	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)	
	ベリマークSC	2,000倍株元灌注(0.5L / m ²) 400倍・0.5L 灌注 / セルトレイ・ペーパーポット	収穫7日前まで 育苗期後半～定植当日	1回	株元灌注 灌注	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)	
	フェニックス顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
UN**	ブレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内	
交信かく乱剤 ***	コンフューザーV	100本 / 10a (41g / 100本製剤)	対象作物の栽培全期間	—	作物の生育に支障のない高さに支持棒を立て支持棒にディスプレイを巻き付け固定しほ場に配置する	—	野菜類に登録

*殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。同コード欄の()は、混合剤の異なる成分の記号を記載。

**作用機構が不明あるいは不明確な薬剤。

***IRACの分類に該当しないもの。